

告 辞

本日ここに、ご来賓並びに関係の皆様のご臨席を頂き、平成二十七年年度函館工業高等専門学校 卒業証書授与式、専攻科修了証書授与式を挙行できますことは、私ども教職員一同にとりまして、大きな喜びとするところでございます。

外国人留学生四名を含む一八六名の本科卒業生、二十名の専攻科修了生の皆さん、全ての教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。これまで皆さんを見守り、支え続けてこられたご家族の皆様方にも、心よりお慶び申し上げます。

函館工業高等専門学校は、昭和三十七年に国立高等専門学校一期校、十二校の二校としてこの函館の地に開校しております。国立高専一期校は、全体で千五百人ほどの募集でしたが、平均十七倍もの志願倍率となり、大変な人気を博しました。これに刺激を受けた他の都道府県や

地域においても、いつそう強力に高専誘致を展開し、短期間でほぼ全国に高専が設置されるようになったものです。現在では国立高専は五十一校、入学定員は約一万人です。若者世代の年齢人口が約百万人ですので、同じ年齢で約一パーセントが高専で学んでいることになります。今年度も皆さんと一緒に約一万人が、全国の高専を卒業します。

高専教育の利点は、全国の国立高専が独立行政法人国立高等専門学校機構のもとに置かれ、卒業生の質保証、すなわち能力・学力が一定のレベルであることを保証していることにあります。同じ年代で一パーセントの道を選んで、函館高専を卒業する皆さんは、全国的水準のある学習環境で学び、ここで身につけた学力はもちろん全国レベルにあることが保証されています。このことに誇りと自信を持って下さい。

皆さんは実に良く頑張ったことと思います。振り返りますと、中学校から入学して、これまでは全く違う環境で、そして何も知らない専門科目の勉強が中心の毎日でした。最初は何もかもが大変な思いをしたことと思います。中学

卒業生を入学させ、工学技術の専門教育を、五年間一貫で教育することが、高等専門学校の特色であり、高度な実践的技術者を養成することが使命でもあります。産業界や社会から強い要請に基づいたものです。その期待は時を経るごとにますます高まっています。

先生方には厳しかったかも知れませんが、学校の制度や規則も容赦しなかったことと思います。先生方や学校にとってみると、函館高専、さらには国立高専全体の社会の評判を作り、社会に通用する卒業生を送り出してきた実績と誇りがあるからです。

このような期待に皆さんはしっかり応えてくれました。

皆さんは多くの人に支えられて、そして助けられて今日ここまで来たわけです。ご家族のご恩や愛情を忘れてはいけません。皆さんを直接教育・指導してくれた先生方への敬愛の念も、忘れないでもらいたいと思います。

皆さんは本校でたくさんの良い思い出を、周りの友人と一緒に作ることができました。ここで得た多くの友人は、かけがいのない財産です。五年間の高専で培った絆は強いものです。これからもお互いを高め合い、そして大切に

て下さい。

皆さんにとっては、卒業がスタートです。大学に進学する皆さん、専攻科に進学する皆さん、就職する皆さん、函館高専で学んだこと、経験したこと、そして卒業したことを誇りに思って次のステップを駆け上がって下さい。

現在の工学技術の進歩は目覚ましいものがあります。その進歩を生み出してきたのは技術者です。新たな技術革新、すなわちイノベーションに対する期待も計り知れませんが、私たちは、新しい工学的創造へ常に挑戦しなければなりません。一方、現代の社会は、多くの課題を抱えています。地域の人口減少と高齢社会に関しては緊急を要するものです。地方創生とも深く関わります。エネルギーや、食料・環境といったグローバルな課題もあります。皆さんは、これから多くの知識を吸収し、そして現代社会の技術的課題に立ち向かえる知恵を身に付けて下さい。既成の枠組を超える新たな発想が試される時代です。

皆さんのこれからの大いなる健闘をお祈りし、告辞いたします。

平成二十八年三月十九日

函館工業高等専門学校長

但野 茂